



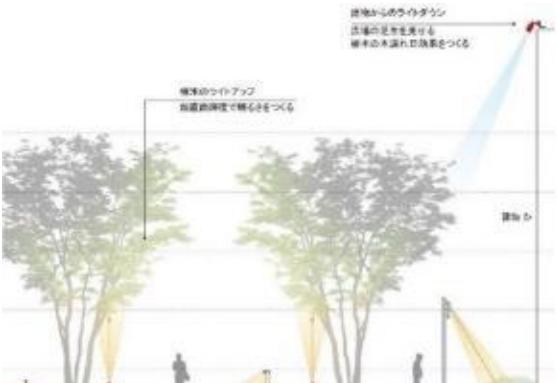
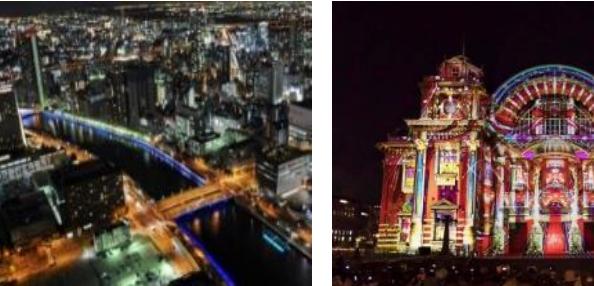
## 第13回 水と光のまちづくり推進会議資料

2022年3月25日

光のまちづくり推進委員会

# 1. 大阪光のまちづくり これまでの動きと成果

- 2004年 ● 『光のまちづくり基本計画』策定
- 2010年 ● 『大阪光のまちづくり2020構想』策定
- 2019年 ● 「水と光の首都大阪」のブランドの確立

光の都市軸	光の暦	光百景	仕組みなど
<p><b>良質な日常の夜間景観の形成</b></p>	<p><b>年間を通じて開催される光のパフォーマンス</b></p>	<p><b>歴史や未来を光で語る(発信)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 官民連携体制の構築</li> <li>● 行政計画への夜間景観の位置づけ(大阪市景観計画・大阪市景観読本)</li> <li>● 「メンテナンス検討資料」の策定・公開による持続的な夜間景観の促進</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 官民が一体となってエリアの価値向上を促す光景観を創造</li> <li>● 日常の光として365日楽しめる風景の確立</li> <li>● 民間投資(民間によるライトアップや光資源を活用した新たな民間ビジネス等)の誘発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大阪活性化に向けた官民協働によるモデル事業の創出</li> <li>● 多様な主体による非日常の光が四季折々の魅力を形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内外に向けたブランディングプロモーション</li> <li>● 関西広域が連携した光のまちづくりの交流</li> </ul>	
	 <p>御堂筋 イルミネーション</p> 	 <p>関西光ネットワーク 交流会議</p> 	 <p>大阪市景観読本</p>

## 光のまちづくり ～面的な拡がり～

### 高質な夜間景観

➢ 中之島や船場地区を中心として、民間によるビルライトアップ等の高質な夜間景観の創出。



ダイビル本館(中之島) 中之島フェスティバルタワー 船場センタービル 芝川ビル(船場)

### 観光振興

➢ ナイトクルーズの運行や、夜間の眺望景観をセールスポイントとした店舗の創出。



舟運 商業 イベント

# 1. 大阪光のまちづくり これまでの動きと成果

## 中之島の地価向上



中之島5-3-81 出典:住友不動産販売HP

※大阪の他地域も上昇しているが、中之島は伸び率が高い

## 中之島の人口の増加



※大阪市住民基本台帳を基に光のまちづくり推進委員会作成

※2017年中之島6丁目にタワーマンション(ザ・パークハウス中之島タワー)竣工

### 中之島の光景観形成により、地価向上、人口増加、商業施設・集合住宅開発活発化などの効果が見られる



## 都市開発の活発化

2008 ほたるまち  
 2009 中之島ダイビル  
 2009 N.4TOWER  
 2012中之島フェスティバルタワー

2013 ダイビル本館  
 2014 三井ガーデンホテル中之島プレミア  
 2017 中之島フェスティバルタワー・ウエスト  
 2018 ザ・パークハウス中之島タワー

2020 こども本の森 中之島  
 2022 大阪中之島美術館  
 2024 未来医療国際拠点  
 2026 福島2丁目PJ(仮称・マンション)

## 構想の背景

### 社会情勢の変化

- 新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン化が進展～ニューノーマル時代の到来(生活・働き方の多様化)
- 注目されるオープンエア、「密」を回避する取組が推進される(コロナ占用特例など)
- 賑わいや交流の在り方、人流経路や滞留時間の変化

社会情勢の変化に対応した光のまちづくり

### 持続可能な開発のための2030アジェンダ

- 2025年大阪・関西万博の開催意義「SDGs達成・SDGs+beyondへの飛躍の機会」「Society5.0実現に向けた実証の機会」
- 万博を契機としたSDGsに貢献する持続可能な光のまちづくりへの転換が必要
- 光のまちづくりを持続可能な取組みとする仕組みづくりが必要

SDGsに貢献する光のまちづくり

【前提】

# 水と光の首都大阪

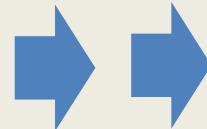
(歴史) × (社会) = (新しいものの創出)

光が「水の都」に果たすべき役割は、「大阪らしさ」を際立たせる事であり、その結果、「水の都・大阪」を通じて、「光」への関心を高め、光のまちづくりに繋げていく事。  
単に水と調和した景観を生み出すだけでなく、新たな文化や産業・技術にスポットを当てる事が光の意義。

2030年に向けた方向性 「水と光の首都大阪のブランド」

2020構想

ブランドの確立



永続化



2030構想

「浸透・発信」 (取組みの発展・拡大)

光のまちづくりに関する新たな仲間、関わりある人々を増やす

～官民の総合力で牽引～

光のまちづくりを取巻く環境変化に対応するとともに、  
これから10年の光のまちづくりは、2025年大阪・関西万博を見据えながら「水と光の首都大阪」をよりオンリーワンに輝かせ、期待感を喚起していく必要がある。

## 2. 2030構想の全体構成

## 大阪光のまちづくり2030構想 2021～2030年

## &lt;全体構成&gt;

光の都市軸	光の暦	光百景
1. 海と川を包含する「水と光の東西軸」の創出	2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成	3. 情報発信と情報共有のためのプラットフォームづくり
(1) 中之島夜間景観の質の向上と持続化 (2) 中之島の新たなエリアへの夜間景観の波及・展開 (3) 海とまちを繋ぐ『光の海道』  赤字:以降詳述	(1) エリアの個性を際立たせる夜間景観創出 (2) 行政計画等との連携を図る (3) 大阪・光の饗宴等、四季の特徴を活かした個性あるイベントを継続的に展開	(1) ITを活用したコミュニケーションデザイン (2) 関西各地域との光の情報連携

## 関連計画との連携

## 水都大阪ビジョン

## 第3フェーズ

- 水の回廊の更なる活性化【深み・厚み】
- ベイエリアや淀川舟運との連携【広がり】
- 人々が集う水辺ライフスタイルの定着【つながり】

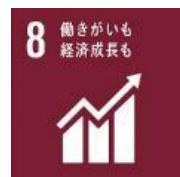
景観の持続化とクオリティの向上に向けて アドバイザリー制度の検討

## 「SDGsの達成に向けた光のまちづくり」の定義

- 光のまちづくりにおいては持続可能な社会を実現するため、グローバル目標であるSDGsの取組みへの貢献が必要。
- 夜間景観に繋がるテーマを以下のとおり厳選し、2030年だけでなく2025年にも目標を据え今後の光のまちづくりに反映。



7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに  
8. 働きがいも経済成長も  
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう



11. 住み続けられるまちづくりを  
12. つくる責任つかう責任  
17. パートナーシップで目標を達成しよう

## 光の都市軸

## 1. 海と川を包含する「水と光の東西軸」の創出

大阪光のまちづくり2030構想 [2021~2030年]

## (1) 中之島夜間景観の質の向上と永続化

- 夜間景観の価値を可視化
- 大阪における光のまちづくりへの波及を促進
- 一部耐用年数を経過している公共空間の橋梁や護岸の照明器具に関する技術の把握、維持管理のための財源確保、適切な更新による永続化



## (2) 中之島の新たなエリアへの夜間景観の波及・展開

- 今後開発される新たなエリアへの夜間景観の波及・展開及び機運向上



中之島美術館

## (3) 海とまちを繋ぐ『光の海道』

- 中之島とベイエリアを繋ぐ安治川が育んだ大阪の文化・産業を光で際立たせる



川口エリアと安治川

## 光の都市軸



## 1) 光の東西軸

東は大阪城エリア、天満・桜ノ宮エリアの一带とし、中之島を経て、西はUSJ、天保山へと続く、大川・堂島川・土佐堀川に沿った軸。咲洲・夢洲地区までを含む。

## 2) 光の回廊

光による新たな魅力創出を担う面的な広がり。個性的な近代建築や、緑豊かな公園などを対象とする。

## 3) 光の南北軸

大阪駅周辺エリアを北端とし難波・湊町、更には天王寺・阿倍野までを南端とした御堂筋を中心とする軸線。

## 4) 光の庭

八百八橋と呼ばれる大阪の資産である多数の橋が架かる、水上の回遊動線。

2025年の大阪・関西万博に向けた重点事業へ

## 光の都市軸

## 1. 海と川を包含する「水と光の東西軸」の創出

大阪光のまちづくり2030構想〔2021～2030年〕

(1) 中之島夜間景観の質の向上と永続化  
 (2) 中之島の新たなエリアへの夜間景観の展開

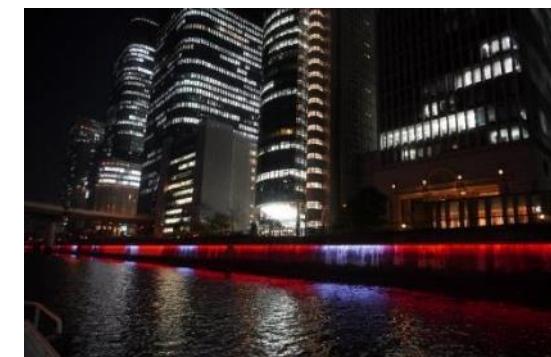
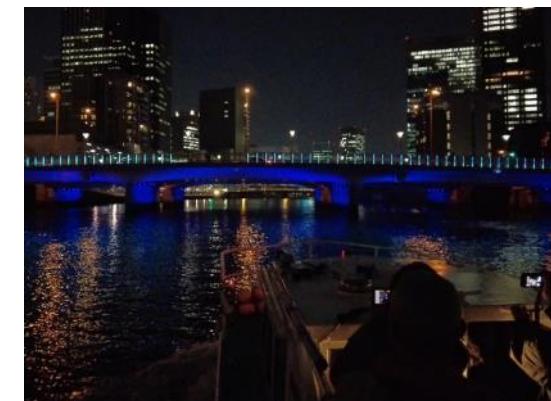


- 中之島における夜間景観は2008年より徐々に広がりを見せ、新たな大阪の都市ブランドを牽引する都市景観として定着している。
- この成功例を大阪全体へ波及するために、その効果成果と共に、現状把握と課題抽出に基づき、質の向上と永続化に取り組むことが求められる。

大阪光のまちづくり2020構想による  
 中之島の夜間景観の効果成果

- 地価の向上や住宅及び企業進出
- 都市格の向上
- 観光振興
- シビックプライドの醸成

	現 状	課 題
①まちづくりとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業ビルによるライトアップ</li> <li>● 橋梁ライトアップと連携した民間イベント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 光のまちづくりの関係者同士の対話(色彩や照度など)</li> <li>■ 視点場の検証</li> </ul>
②一体的な光演出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 橋梁や護岸の点灯時間や調光演出の連携</li> <li>● 催事などとの演出連携(天神祭など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 共通プログラム(現状は変更が難しい)</li> <li>■ プログラム技術者の育成</li> </ul>
③コンセプトの統一	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各エリアの歴史や産業等の個性や特徴を活かしたコンセプト</li> <li>● ライトアップ箇所(橋など)の価値を活かす地域との対話やワーキングを一部で開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 統一感を持たせたコンセプト</li> <li>■ 地域との対話(現状はストーリー性が不足)</li> </ul>
④環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>● LED照明の活用(省エネ)</li> <li>● 適正な照明マネジメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 耐用年数を経過したLED更新の検証</li> <li>■ 専門性の高い調光システムやプログラムの管理体制などの検証</li> </ul>



## 方向性

## 中之島全体として包括するストーリーによる地域に愛される光景観のブラッシュアップ

## ①ストーリーのブラッシュアップ

- 中之島をエリアの特徴別にゾーニングした上でコンセプトを再考
- まちづくり団体や地域との交流・対話等

## ②色彩や演出のブラッシュアップ

- 統一感ある色彩や調光演出の検討
- プログラムシステムのブラッシュアップ

## ③維持管理とメンテナンスのブラッシュアップ

- LED更新に向けた技術検証
- アジェンダシステムのブラッシュアップ
- 新たなメンテナンスマニュアル(ガイドライン)の策定
- 遠隔操作の導入検討

## ④得られた経済効果による質の向上、永続的な光のまちづくりに資する仕組みづくり

- 永続的な取組みを担保する費用負担のあり方の検討
- 公共施設と民間施設が一体となった光景観づくり



光の都市軸

## 1. 海と川を包含する「水と光の東西軸」の創出

大阪光のまちづくり2030構想 [2021~2030年]

### (3) 海とまちを繋ぐ『光の海道』



## バイエリアと大阪都心の一体感を醸成

- 中之島とバイエリアを繋ぐ安治川が育んだ大阪の文化・産業を光で際立たせる。



天保山大橋



イメージ 従前のライトアップ

### 方向性

新たな大阪の魅力と価値を創出するための戦略的なブランディング

2025大阪・関西万博時に国内外に向けて大阪の高い技術に裏打ちされた「安全安心都市」発信

「安治川水門名所化」＝ライトアップと段階的なブランディングプロモーション＝

- ① 台風や高潮などの災害から市民を守ってきた高い技術と 機能を持つ安治川水門の治水力防災力を発信
- ② 万博に向けた大阪の安全・安心のシンボルとして 様々なシーンで安治川水門をアピール＝名所化＝  
※安治川水門は今後、更新を予定している



安治川水門



イメージ

光の都市軸

## 2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成

大阪光のまちづくり2030構想 [2021~2030年]

## (1) エリアの個性を際立たせる夜間景観創出



梅田



中之島 [フォトコンテスト作品]



グランフロント大阪



OBP [フォトコンテスト作品]



船場(芝川ビル)



難波(南海ビル)



## 大阪ならではの「官民共創」の創出

- エリア別光のまちづくり検討資料策定時に連携したエリアマネジメント団体との更なる連携を図る。
- 中之島エリアに次ぐターゲットエリアは次のとおりとし、エリアマネジメント団体との対話により、エリアの特性をまとめ、方向性を定める。

## エリアマネジメントとの連携

対象エリア(7エリア)

1. 大阪エリアマネジメント活性化会議参加エリア	梅田／中之島／御堂筋 ／難波
2. 新たにエリアマネジメントに取り組むエリア	船場／新今宮 ／天王寺・阿倍野

- まちのブランドを形成する光への理解、共感
- 考えているまちの課題解決を図る方策とともに、SDGsに貢献する光のまちづくり、持続可能な光のまちづくりのあり方についての対話、意見交換等

## 官民共創・公益の価値を創出する方策検討

- 得られた経済効果による質の向上、持続的な光のまちづくりに資する仕組みづくり

エリアマネジメント団体と協調した  
大阪・関西万博への機運醸成・レガシーの継承

光の暦

## 2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成

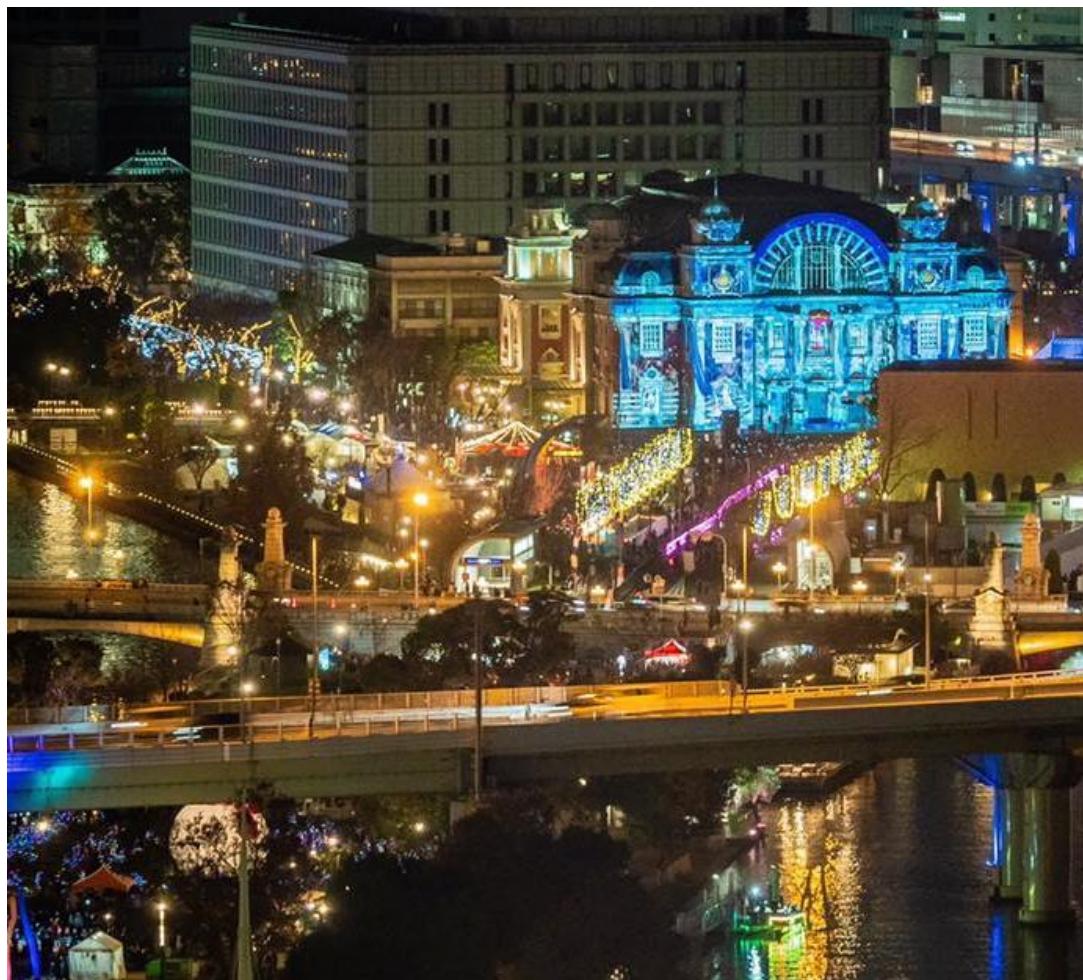
大阪光のまちづくり2030構想 [2021~2030年]

(3)大阪・光の饗宴等、四季の特徴を活かした個性あるイベントを継続的に展開



### 大阪の風物詩として定着

- 大阪の冬の風物詩にもなった大阪が一体となり光でおもてなしに取り組む大阪・光の饗宴の開催
- 大阪・光の饗宴を通じた官民協働によるモデル事業の創出
- 光の都市軸、日常の光景観資の創出とともに、大阪の魅力を際立たせる四季折々の非日常の光を創出
- 大阪市内、府下のエリアマネジメント団体等と連携したエリアプログラムの拡大



光のルネサンス



御堂筋イルミネーション



©大阪・光の饗宴実行委員会  
エリアプログラム一例

# 4. 2025年大阪・関西万博を好機とした水と光の首都大阪ブランドの発信

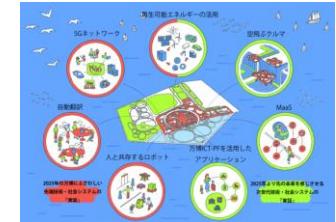


提供: 2025年日本国際博覧会協会

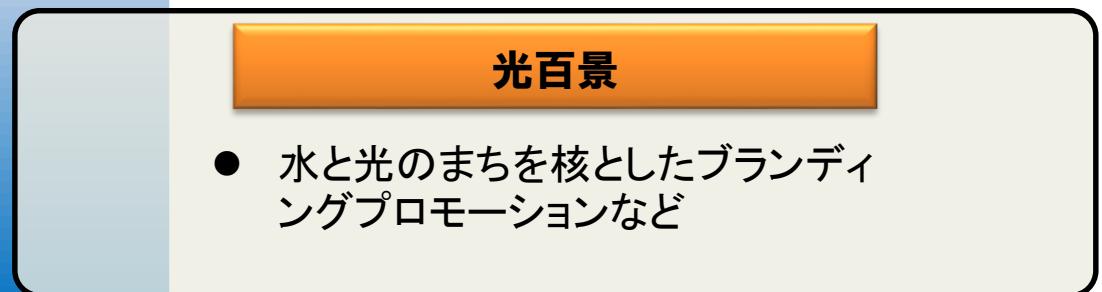
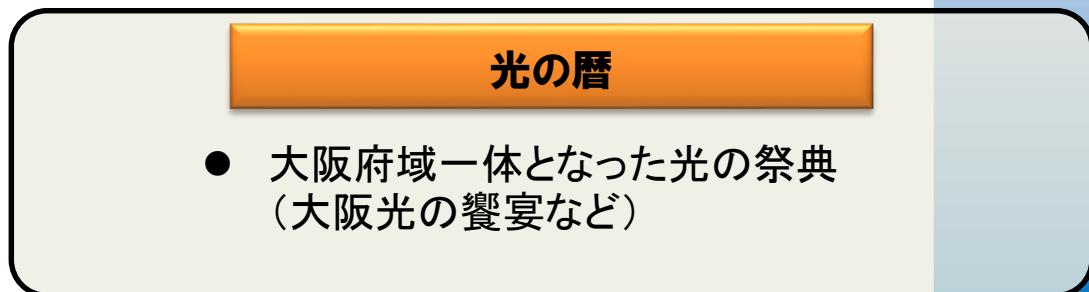
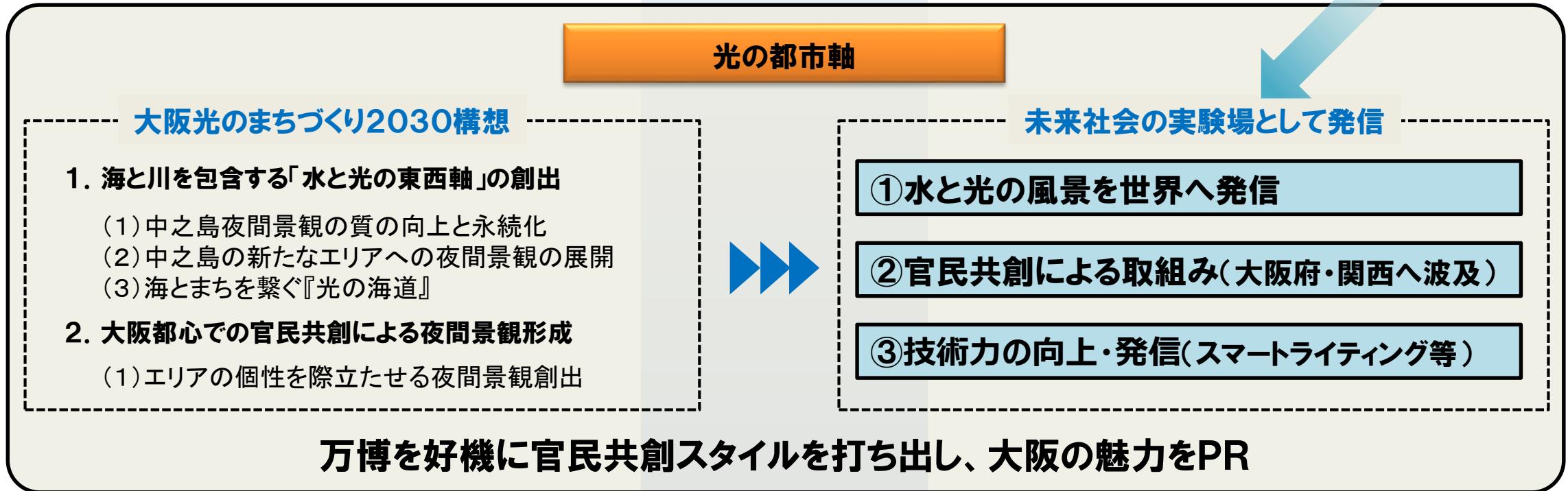
## 2025年大阪・関西万博の機会を活かす

- これまで作り上げてきた「水と光のまち」を世界に発信する好機
- 大阪・関西万博を通じて大阪の都市格向上につなげる

2025万博のコンセプト  
「People's Living Lab  
(未来社会の実験場)」



提供: 2025年日本国際博覧会協会



**水と光の首都大阪のブランド  
2030年に向けて「浸透・発信」していく**



# 5. 2030構想ロードマップ

## 推進イメージ

- 大阪・関西万博の機会を活かして、これまでに培った資源を発信するだけでなく、新たな魅力の創造・発信にもオール大阪で取り組む。
- 大阪・関西万博時に創出される多様な資源を万博レガシーとして継承し、大阪の光の永続化を図る。
- 大阪の光景観の創造と永続化に向け、官民一体となった事業推進体制や財源確保など推進スキームの構築を図る。

### 大阪光のまちづくり2030構想 [2021~2030年]

1. 海と川を包含する「水と光の東西軸」の創出
2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成
3. 情報発信と情報共有のためのプラットフォームづくり

- オール大阪の多様な魅力を含む
- 万博時における大阪の魅力発信

● オール大阪で万博に向けた魅力創造・発信

2025年

大阪・関西万博を契機とした  
官民共創による  
多様な都市魅力

万博レガシーの継承、  
魅力ある光景観を  
永続化

- 大阪・関西万博を契機とした多様な都市魅力
- 創出された魅力を更に向上させる光による取組み
- これまでに形成された光の魅力資源

都市格の向上  
(水と光の首都大阪のブランド)

2021年

あと3年しかない

大阪の魅力を国内外に発信 ブランディングプロモーション手法・ツールが整いつつある

観光集客 大阪活性化に向けた官民協働によるモデル事業の創出 投資効果の検証

魅力創造 官民が一体となってエリアの価値向上を促す光景観を創造

【背景】水と光のまちづくり推進に関する基本方針

水と光のまちづくり 国内外へ発信する大阪らしい光のまちづくり

2020構想  
ブランドの確立

2030構想  
浸透・発信～光のまちづくりに関する新たな仲間、関わりある人々を増やす

2030年  
以後

2010年～2019年

1. 前期フェーズ  
2021年～2024年

大阪・関西万博  
2025年4/13～10/13

2. 後期フェーズ  
2026年～2030年